

第4回宗像市地域公共交通会議会議録

日 時	平成22年8月24日（火） 14時00分～16時30分
場 所	市役所3階第304会議室
出席者	<p>【委員】大枝良直、村上和則、古野 浩、花田義男、古賀千種、貫 一字、原田勝子、永尾英信、常岡浩治(山下代理) 早川正史</p> <p>【事務局】柴田課長、大隈係長、尾園</p> <p>【オブザーバー】西鉄バス株式会社 営業二課 吉田 加茂 福重</p>
議 題	<p>1) ふれあいバス（第4系統）の路線確認</p> <p>2) ふれあいバス路線（詳細案）について</p> <p>3) その他</p>

1 会長あいさつ

あいさつ内容は省略。

2 前回議事録の確認

別紙議事録のとおり。

3 議題

(1) ふれあいバス（第4系統）の路線確認

市のバスに乗車し、第4系統（玄海地区）を周回した。（14時から15時30分まで）

(2) ふれあいバス路線（詳細案）について

事務局から交通体系審議会答申に基づく、ふれあいバス路線の見直し案等についての説明。

(永尾会長)

今日はあまり時間がないが、質問があればどうぞ。

(村上委員)

これは質問というより要望的な部分になるが、10人乗りワゴン車が西鉄バスのバス停までのつなぎ役としての運行にならなければ、こちら（西鉄バス宗像）の経営に大きな打撃を受ける。今後の話しの結果によっては、今まで（泉ヶ丘、森林都市、日の里線）以上に路線廃止もあり得る。その辺も考慮して会議を進めてもらいたい。

(花田委員)

第3系統(南系統)について、高架橋は非常に渋滞するので、時間的に相当ロスする。くりえいとまで行きたい人はいると思うが、くりえいには行かず赤間駅南口のほうがいいのではないか。

(原田委員)

現在利用させてもらっているが、そこ(高架橋)を通過するということでふれあいバスを利用している。赤間駅での乗り換えが面倒。ふれあいバスのほうが直接行けるので、利用者から喜ばれている。

(貫委員)

混む時間帯はだいたい決まっている。土日やサンリブが開く時間とか17時から18時30分は必ず渋滞する。

(古野委員)

村上委員から話があったが、タクシー会社なら路線の廃止どころではない。廃業となる。この会議の経過については、全会社(タクシー会社)が注視している。インターネット等でこの会議の情報を収集している。自分たちの企業の存続に関わる問題。しかし、一方で交通弱者の立場も考えないといけない。そのためにも市民が喜ばれるように効率的に税金を使わないといけない。会議の決定には従うが、企業としての意見も少し考慮してもらいたい。

(永尾会長)

用山地区はもう少し上(吉武養魚場)までカバーできるか?

(事務局)

現状の場所が基本となるが、時間的にはほとんど変わらないため、カバーできると思う。

(原田委員)

第3系統だが、西鉄バスが廃止されれば、ふれあいバス路線だけとなる。いくらふれあいバスでカバーしても限りがあるので、困る人が出てくるのではないかと?もう少し考えてもらえると助かる。

(古野委員)

細かい路線についてはわからないが、全体的な構想としては人口の多いところに積極的にふれあいバスを回していく、人口の少ない所や効率の悪い所には10人乗りワゴン車を導入していくという考え方はいいと思う。今日、1時間(第4系統)乗ったが、無駄が多い。環境面からもよくない。よくこの路線で335日走っているなという感じを受けた。

(早川委員)

前回、玄海地域を切り捨てているのではないかと?という話をしたが、今日、実際に乗ってみて感じたことは、第4系統は、時間がかかり、機動性に欠けて

いる。本来なら30分位で行けるところを1時間位かけて運行している。そこで意見だが、新路線を検討すると同時に10人乗りワゴン車の導入も一緒に考えていけないのか？池野でも10人乗りワゴン車の導入についての意見が出ている。南郷と吉武が試験運行しているが、人件費がどのくらいなのかとか、今後の運行は業者に任せるのかといった議論も同時に進めていかないとふれあいバスだけの議論では限られた地域の話となる。この会議が宗像市内全体の交通体系を検討する会議であれば、同時に考えるべきではないか。

(永尾会長)

事務局からふれあいバス路線を固めて、10人乗りワゴン車を検討したいとの意見があった。確かに合理的な考え方であるが、その辺は行ったり来たりしての議論になろうかと思う。事務局でふれあいバスや10人乗りワゴン車に対しての考え方や方向性等の案はあるか。

(事務局)

事務局としては、前回説明させてもらった宗像市交通体系審議会の答申を踏まえることになる。西鉄バス路線については、こちらで勝手に路線を変えることはできないが、ふれあいバス路線についてはこちらで路線を見直すことができる。今までの路線は、遠回りだが乗っていれば目的地につく路線であったが、それだと効率も悪く、便数も少なくなる。そのため、基本的な考え方としては、やはり答申の内容に沿ってコンパクトで便数の多い路線にしていきたいと考えている。この路線案を出す前も事務局で相当検討を行った。その結果、少し答申とは違う形になるが、第2系統をくりえいと、赤間駅から外して、ユリックス、メイトムで接続するように提案している。これは、時間の関係や廃止路線の関係、旧3号線を走る西鉄バスの便数等を考慮した。事務局としては、ふれあいバスを固めないと、10人乗りワゴン車の導入範囲等が決められないと考えている。

(古野委員)

なぜ、335日しか運行していないのか？公共交通なら365日走らすべきでは？

(事務局)

これは、導入当初の経緯をそのまま継続している。そもそもはメイトム宗像の開館にあわせてふれあいバスを導入したため、第1土曜とそれに続く日曜が休みとなっている。それに併せて車輛のメンテナンス等も行っている。毎日走らせることもできると思う。

(永尾会長)

当初からは大きく変わっているため、見直すべきであろう。

(古野委員)

3台を走らせるためには、当然、車検、定期点検、故障、事故等に対応しなければならないため、普通4台もっている。

(花田委員)

10人乗りワゴン車だが、人件費(約100万円)が地域の負担と言うことで、コミュニティの運営にかなりの負担となっているのではないかと。今後、5台導入(案)となっているが、その辺の財政的な支援はどうなるのか?

(事務局)

確かに今は人件費についてコミュニティでお願いしている。コミュニティの方で特に協賛金や負担金は取っていない。今、吉武と南郷に試験運行の検証を9月中旬までにまとめてもらうようお願いしている。どういう方法で組織を立ち上げ、運行ルートを決め、時刻表を作り、どのくらいの利用者があったのかという実績と、将来にわたる課題(財政面、運転手面、継続性等)をまとめてもらおうと思っている。早ければ、次回の会議までにできるかと思う。

(古野委員)

無料でバスを利用するということが、不平等である。利用するのであれば、それなりに料金を払う受益者負担が原則である。何らかこういう会議で合意形成ができればコミュニティ運営協議会でも運賃を取ることができるのではないかと。

(事務局)

今のコミュニティ運営協議会では道路運送法上、有償で運行することはできない。有償運行するためには、法人格を取得しなければならない。

(早川委員)

こういう内容について、コミュニティ課と密に連携、情報共有ができていますか?

(事務局)

吉武と南郷の定例会議(運行会議等)には、総務課職員とコミュニティ課職員が同席し、情報の共有を図っている。

(古野委員)

コミュニティ側でも運行に関して負担に感じていることはないのか?

(事務局)

現在の試験運行は前向きな2地区が運行を行っているため、その辺は特に負担等はない。逆に思ったより乗客が少なく、運転手が落ち込むことはあるみたいだが。

(永尾会長)

試験運行の結果も含めて、運行形態についてはここ(地域公共交通会議)で

決定することになる。

(事務局)

10人乗りワゴン車は基本的な方向性をこの会議で決定してもらえないと、市としても地域との協議に入れない。当然、地域の考え方を十分反映したシステムにもっていかなければならないので、その辺を念頭に議論をお願いしたい。

(早川委員)

今の段階では、コミュニティの負担が大きくなるのではないかと考えるため、もう少し具体的に10人乗りワゴン車の説明と導入形態の案を示してもらいたい。そうしないと、こちらも市民から聞かれたときに答えられない。

(事務局)

もう少し時間をいただきたい。この会議はいろいろな立場の人達が注目して会議経過をみている。この会議は原則公開ということで、HP（ホームページ）で会議録を公開している。市民の方にはその辺で説明をお願いしたい。

(原田委員)

自分は自由ヶ丘だが、ふれあいバスの乗車にはお金がかかり、10人ワゴン車が無料となると、やはり不公平感がある。先程の話にあったが、何らかの受益者負担は必要であると思う。

(永尾会長)

では、今日の今日で路線は決定できないので、次回具体的に話を進める。事務局はどうか？

(事務局)

次回の会議で路線を詰めたいので、1ヵ月間新路線について考えてもらい、ご意見があれば、遠慮なく事務局までお願いしたい。次回ここで報告し、協議したいと考えている。

(3) その他

特になし。

4 次回会議の日程について

平成22年10月5日（火）午後2時～ 会場は後日連絡